

第5次ニセコ町総合計画第2次見直し検討委員会（第1回）会議録（概要）

◇日時 令和元年（2019年）6月11日（火）18:30～20:30

◇場所 ニセコ町役場第二会議室

◇参加者 【委員】磯野 浩昭、井上 剛、斉藤 海三郎、佐々木 眞理、高井 裕子、
竹石 成樹、坪井 訓、安岡 洋介（敬称略、以下同様）
【事務局】山本 契太（企画環境課長）、柏木 邦子（企画環境課参事）
齊藤 徹（企画環境課経営企画係長）、梅田 滋（企画環境課集落支援員）

●委員自己紹介

（省略）

●委員長、副委員長の互選

- ・委員長：磯野 浩昭（立候補）
- ・副委員長：井上 剛（立候補）

●議長（磯野浩昭委員長）

●資料確認（事務局より説明）

- ・第5次ニセコ町総合計画（第1次見直し版）、概要版
- ・第5次総合計画第2次見直しアンケートの事前ヒアリングから（記録）
- ・第2次改定に向けたアンケート調査（案）
- ・「SDGs 未来都市計画」と「第5次総合計画」の対応関係
- ・第5次総合計画第2次改定工程表

<議事>

（○委員からの発言、～事務局からの発言）

1 あいさつ・説明（山本課長）

※大きく4点

- ①「第5次ニセコ町総合計画の第2次見直し」とはどういう事業か
～4年毎の見直しを、住民による外部評価と役場庁内の内部評価を合わせて行う
- ②「第1次見直し」では、どんなことをしたのか・・・資料「総合計画第1次見直し版」
～住民アンケートと庁内ヒアリングによる検証と、総合計画施策修正への反映を行っている。
戦略ビジョンの中に自治創生総合戦略の内容を追加している。
- ③4回開催予定の本検討委員会の役割と、本日第1回目の課題は何か
～総合計画見直しに参加し、住民意見を反映させることが基本的役割。
～1回目の課題は、庁内事前ヒアリングを受けて作成した住民アンケート案の検討を行う・
- ④検討委員会の今後のミッションは何か
～アンケート分析結果や事後庁内ヒアリング結果、計画見直し案の検証、など。
～SDGs 未来都市計画、環境モデル都市第2次アクションプラン等との関連性を検討。
～その他、関連する自由な議論。

2 「事前庁内ヒアリング調査記録」、「アンケート調査案」の説明（齊藤係長、山本課長補足）

①「ヒアリング記録」のポイント2点・・・資料「事前ヒアリングから」

～設問はある程度漠然とした聞き方になるが、住民に分かりやすい表現とする。

～この4年間の状況変化を反映した項目設定とする。

例えば、今までは再生可能エネルギーの投入をどんどん行ってきたが、環境モデル都市第2次アクションプラン策定等の中で学習したことは、まず省エネから高効率化、最後に再生可能エネルギーという順番であることが判った。アンケートにもそこを踏まえて反映している。

②「アンケート調査票」のポイント・・・資料「アンケート調査票」

～前回アンケートとの継続性、定点観測の観点を重視しつつ、上記2点の留意点を反映

～「満足度評価」から、“重回帰分析”により住民意識を構造的に把握することや、住民意識に基づいた重視度指標を施策の優先度に活用することが可能になる

例えば、前回の調査結果による散布図では、縦軸に「満足度」、横軸に「影響度」を表現しているが、「農地の保全」の項目を見ると、影響度がある程度大きく、満足度も低いことがわかる。このように散布図の右下（満足度が低い影響度が大きい）の項目が重点課題となることが判る。

～同時に、地区別の集計もしており、例えば南西地区では全般的に外と比べて満足度が低いことがわかった。当該地区のヒアリング等を重ねていくと、地理的にも市街地から遠く、市街地での説明会やイベントが多いため、参加しづらい状況にあることや、交通に課題があることが判った。

3. 質疑および意見交換

（○委員からの発言、～事務局からの発言）

①上記説明した「ヒアリングレポート」「アンケート調査票」について

○アンケートは統計的なものであるが、実際の暮らしとマッチするデータが取れるのか。また、実際の行動（施策）へ反映されていくのか。

～単なる統計データの集計ではなく、重回帰分析により、満足はしているけれどもさほど重視していないなど、心理状況もつかむことが出来る。マーケットリサーチでも使う手法。札幌市でも500集まれば札幌市の全体がわかるといわれるほど、統計として信頼できるデータが取れるとされている。

前回も、結果を各課へ見てもらっているが、役場の現場感覚とマッチしている。そこから先には、まちづくり懇談会においても内容を説明するなど、生の声をヒアリングしていくことで施策につなげていく。

○アンケートの回収率は？

～前回で18歳以上のニセコ町民から1500無作為抽出し、39%の回収率だった。

○アンケートのボリュームが大きくなるか。内容を半分にして倍の人数に配ったほうが良いのではないかと。最後まで集中力が続かず、後半の回答が適当になってしまうのでは。

～やってみると、意外とあっという間に終わる内容ではある。あまり考えずに閃きや第一印象で答えられる内容である。

○定点観測的に2回行っているので、方法は変えないほうが良い。

○アンケート内容のなかで、何が聞きたいのかわからないところがある。

＜※複数箇所指摘あり、会議後の指摘も含め、修正をしたところは以下枠内のとおり＞

(1)・・・P2

・子育て(11)における教育と混同しないよう、学校教育の質問であることを明示する

●表題「子どもの教育・・・」→「学校の教育・・・」

(4)・・・P3

・「環境への配慮を評価する仕組み・・・」がイメージできるような表現にする

●「1 環境への配慮を評価する仕組みについて」→「環境へ配慮が行われているかを評価する仕組みについて」

(5)・・・P3

・省エネから高効率化、最後に再生可能エネルギーという順番を踏まえた表現に。

●「6 地域における再生エネルギーと省エネ活動」→「地域における省エネ活動と再生エネルギー活用」

(6)・・・P3

・自宅関連の質問なのか、町全体を対象にした質問なのか、不明瞭な表現がある

●「4 住宅の・・・」→「自宅の・・・」

(7)・・・P3

・公共交通機関についての評価項目がないので、新たに追加する

●新規追加＝「5 公共交通機関（JRやバスなど）の使いやすさについて」

・「市街地街並み」のイメージが多様で、答え難い

●「7 市街地街並みの住みやすさや使いやすさ・・・」→「商店街や公共施設等の使いやすさ・・・」

・この場所(7)よりも、防災・防犯の所(8)に移したほうが良い

●「7-7 災害時における町内避難経路について」→「8-6 ・・・」

(8)・・・P4

●「8-6 災害時における町内避難経路について」←「7-7 ・・・」

(11) . . . P4

・子育て環境の一つとして「公園」などについても聞いたほうが良い

●新規追加＝「5 公園など子どもの遊び環境の整備状況は？」」

(14) . . . P5

・4年前の質問表現より、8年前の質問表現のほうが住民には答えやすい

●「8 農地の整備が進んでいるか」→「農地の保全状態について」

・どのような農業をイメージしたらよいかのかわかりにくい

●「14-10 生産性の高い、強い農業が行われているかについて」

→「基幹作物の安定生産と、多様な農作物の柔軟な生産について」

(17) . . . P6

・ラジオニセコによる情報共有についても聞いてはどうか

●新規追加＝「2 ラジオニセコによる情報提供について」

4-3 属性（居住地） . . . P8

・行政区の名称が具体的に分かるような選択肢にしたほうが良い

●川北地区 → 川北地区（ニセコ、曾我）

有島地区 → 有島地区（有島）

市街地区 → 市街地区（市街地、中央、本通）

近藤地区 → 東部地区（元町、近藤、豊里）

西南地区 → 西南地区（里見、宮田、黒川、富川、福井、西富、桂台）

4-8 属性（世帯構成） . . . P8

・選択肢の「3. 子どもと同居」「4. 親と同居」の違いが、回答者によっては混乱する

●「3. 子どもと同居」と「4. 親と同居」→「3. 親子二世帯」

「5. 子どもと親と三世帯同居」→「4. 親子三世帯」

表題 . . . P1

・回答しようという気持ちになるような呼びかけ表現にする

●「ご協力をお願い」→「ニセコ町のまちづくりに、あなたのご意見を反映します。」

※他にも表記上、表現上の細かい修正を行っている。

○外国人にも送るのか。

～無作為抽出であり、ある程度の外国人は該当になると思われるので、英訳して送る。

○アンケートの回答の視点として、町全体のことを答えるのか、自分の主観的な視点で答えるのか。

～自分の満足度が計られるので、自分のことや自分の周りのこととして答えることが基本。“べき”論ではない。

○例えば地区別に回答率が異なる場合などがあるが、まとめて集計した場合、全体としての意向となるのか。

～地区や年齢等に大きな偏りや歪みがないようにチェックしており、その結果ある程度の歪みが出た場合は分析の際に留意する。

○属性記入欄で、不要な情報は無いのか。

～様々な分析の中で、スポット的にクロス集計をかける。最終的には使用しない属性もあるかもしれないが、クロス分析等で使用する可能性のある属性は前もって入れてある。

② 「SDGs 未来都市計画」「環境モデル都市第2次アクションプラン」との関連性

～ニセコ町は SDGs 未来都市に認定されており、今回の見直しの際に総合計画との整合性など確認を行っている。そこで、現在総合計画に含まれない SDGs ゴールがある。例えば、人権、ジェンダー、ハラスメント、LGBT、情報共有、自然生態系、等があり、今後含めていく方向で考えているが皆さんの意見をお聞きしたい。

○ニセコ町において人権の意識は低いと思うし、取り組んではいないと思う。人権問題は非常に幅広い概念で簡単ではない。学校で人権教育をしているのかどうかも判らない。いじめや特別支援学級の子供の扱いなどどういう実態になっているのか。ニセコ町の人権問題について月1回ペースくらいで勉強会を行ってはどうか提案する。

○ジェンダーの問題などは、総合計画で言うと「基本理念を支える5つの将来像」内の「5. 誰もが安心して暮らせるまち」、その下の「戦略ビジョン」では「9 顔が見える相互扶助の地域社会をつくります」に含むべきところになると思う。

～男女平等参画に以前担当としてかかわっていた。その取り組みには大きく3つの柱がある。①意識改革、②女性活躍の場づくり、③DV対策である。DVの場合はある程度統計が取れるので実態把握が可能であるが、例えば「ハラスメント」の問題は主観に基づくことが多く客観的に線引きしづらい。まずは相談できる体制づくりから始めることが大切。

○役場の中は今でも、何かあった場合には何処かしらに対応する部課はあるのでは。

～福祉などでは対応している。

○それを積み重ねていけばいいのでは。

○そもそも「ジェンダー」の意味がわからない。日本語で表現してほしい。

○学校では、すでに子供が入学する際にいじめの相談窓口など相当細かく書かれたペーパーが配布されている。

○月 1 回の勉強会はいいと思うが、子育て世代がこのような会議に出るのはとても大変。例えば学校のことであればコミュニティスクール委員会などに聞いてみては。

～実態がわからなくても、今後 4 年間目指すべき第一歩として追加して書き込んでもいいのではという考え方もある。実施したものでなければ入れられないというわけではない。

4. 今後のスケジュールについて（斉藤係長）

①「工程」の説明・・・資料「工程表」

～今回を含めて年度末までに 4 回の検討委員会の開催を予定している。2 回目の検討委員会はアンケート後に実施するが、今回の会議録やアンケート案の修正などメールなどを通じてフィードバックしていくので、随時ご意見いただきたい。

②次回検討委員会の日程について

（～改めて後日連絡調整する。）

終了（20：30）